

不易と流行 Part 5 一年末・年始の風習・習わし



年の暮れを迎え、街を歩き交う人々の足どりにもあわただしさが感じられるようになってまいりました。毎年この時期になると思うのは、「1年が経つのは早い」ということです。特に今年は5月に新年号に変わったこともあり、令和元年はあっという間に過ぎました。いよいよ明日からは、子どもたちが楽しみにしている冬休みが始まります。

さて、冬休み前に子どもたちに話しておきたいことがいろいろあります。

1つは、年末・年始の伝統文化についてです。ある調査をみますと、年末・年始にしている慣習のベスト3は、1位 年越しそば、2位 初詣、3位 おせち（雑煮）だそうです。

大晦日に「年越しそば」を食べる習慣は、江戸時代に定着したと言われていています。その起源には諸説あるようですが、そばは長く伸ばして細く切って作る食べ物なので、細く長くということから「健康長寿」「家運長命」などの縁起をかついで食べるようになったという説が一般的です。他の説を一つだけ紹介しますと、他のめん類よりも切れやすいことから「今年一年の災厄を断ち切る」という意味もあるのだそうです。

初詣については、年が明けてから初めて神社や寺院などに参拝する行事で、一年の感謝を示したり、新年が平安で良い年になることを祈ったりする風習です。どの神社に初詣に行くかということも今と昔では違うそうです。当初は氏神様を参拝するという形でしたが、江戸時代になると、自宅から「恵方」にある神社を参拝する「恵方詣（えほうもうで）」という習慣が広まっていきました。そして、明治時代になると、今のように好きな神社・寺院にお参りするようになったそうです。

おせち料理は、1年の最初に食べると縁起が良いと言われる食べ物がぎっしり詰まった開運料理です。もともとは収穫物の報告や感謝の意味をこめて、その土地でとれたものをお供えしていました。そして、暮らしや食文化がどんどん豊かになるに従って山海の幸を盛り込んだご馳走となり、現在のおせちの原型ができたのだそうです。また、おせち料理は お正月に火を使う事は縁起が悪いとして三が日は料理をしなすむようと、保存が効く食べ物が使われています。

他にも、しめ縄や門松、鏡餅等の意味や年賀状、お年玉の由来等、自分で調べてみるのもおもしろいと思います。しかし、近年は、スーパーや娯楽施設等が年末年始もオープンするようになったことや、お正月を海外やホテルなどで過ごすといった行動の多様化などにより、年末・年始の伝統的な文化・風習もだんだん行われなくなってきているようで、少し寂しく感じます。

話しておきたい2つ目は、干支についてです。日本には、「年」の呼称が主に3種類あります。西暦、和暦（元号）、そして干支です。普段は、西暦と和暦の2つを使う機会がほとんどですが、年末になると干支が話題に上ります。来年の主役は、子（ねずみ）です。この干支の由来については、「十二支のはじまり」や「十二支のおはなし」という絵本がありますから、一度読んでみてください。



最後は、最近すっかり恒例になった「今年の漢字」についてです。これは、1995年に始まったもので、流行語大賞等と並んで、その年の日本の世相を反映する一つの指標として使われています。今年も12日に清水寺において発表され、「令」の字が選ばれました。そこで、大野小学校の今年の漢字は何だろうかと考えてみました。24日の終業式に子どもたちに発表したいと思います。皆さんも、1年を振り返って「我が家の今年の漢字」について、家族で語り合ってみませんか。



保護者や地域の皆様には、今年1年、本校の教育活動にご理解と多大なるご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、良いお年をお迎えください。

